

2020年12月期 決算補足説明資料

2021年2月3日



伊勢化学工業株式会社

業績のポイント(2019-2020)

(百万円)	2019	2020	増減	増減%
売上高	16,854	16,859	+4	+0.0%
営業利益	2,057	2,185	+127	+6.2%
当期純利益	1,191	1,343	+152	+12.8%

▼ヨウ素及び天然ガス事業

- ・販売先における修繕実施、新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、ヨウ素製品の販売は前年同期を下回る
- ・ヨウ素国際市況が引き続き回復基調で推移

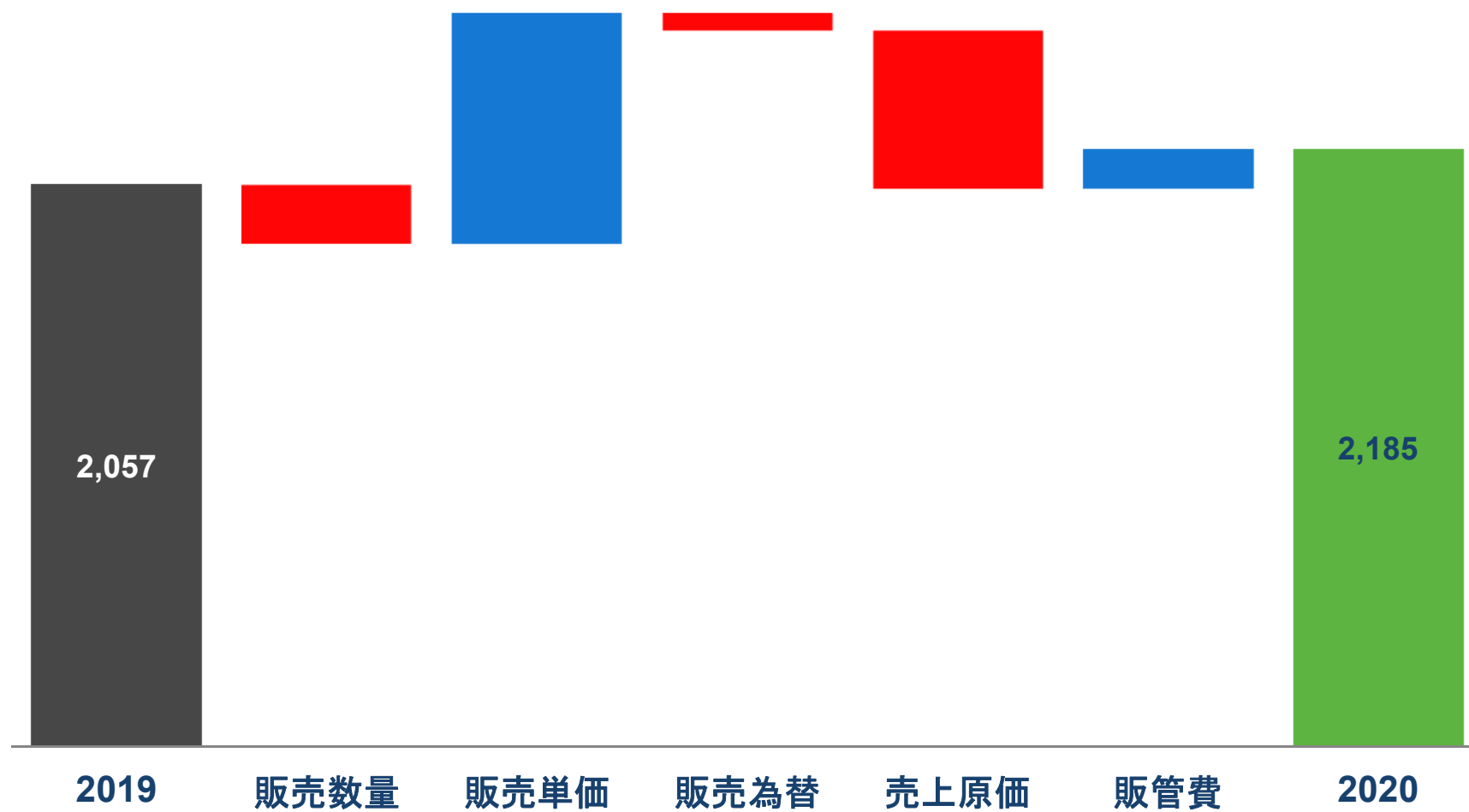
▼金属化合物事業

- ・塩化ニッケルの販売数量が堅調に推移し、金属相場が上昇

営業利益増減要因分析(2019-2020)

営業利益前年対比 +127百万円

(百万円)

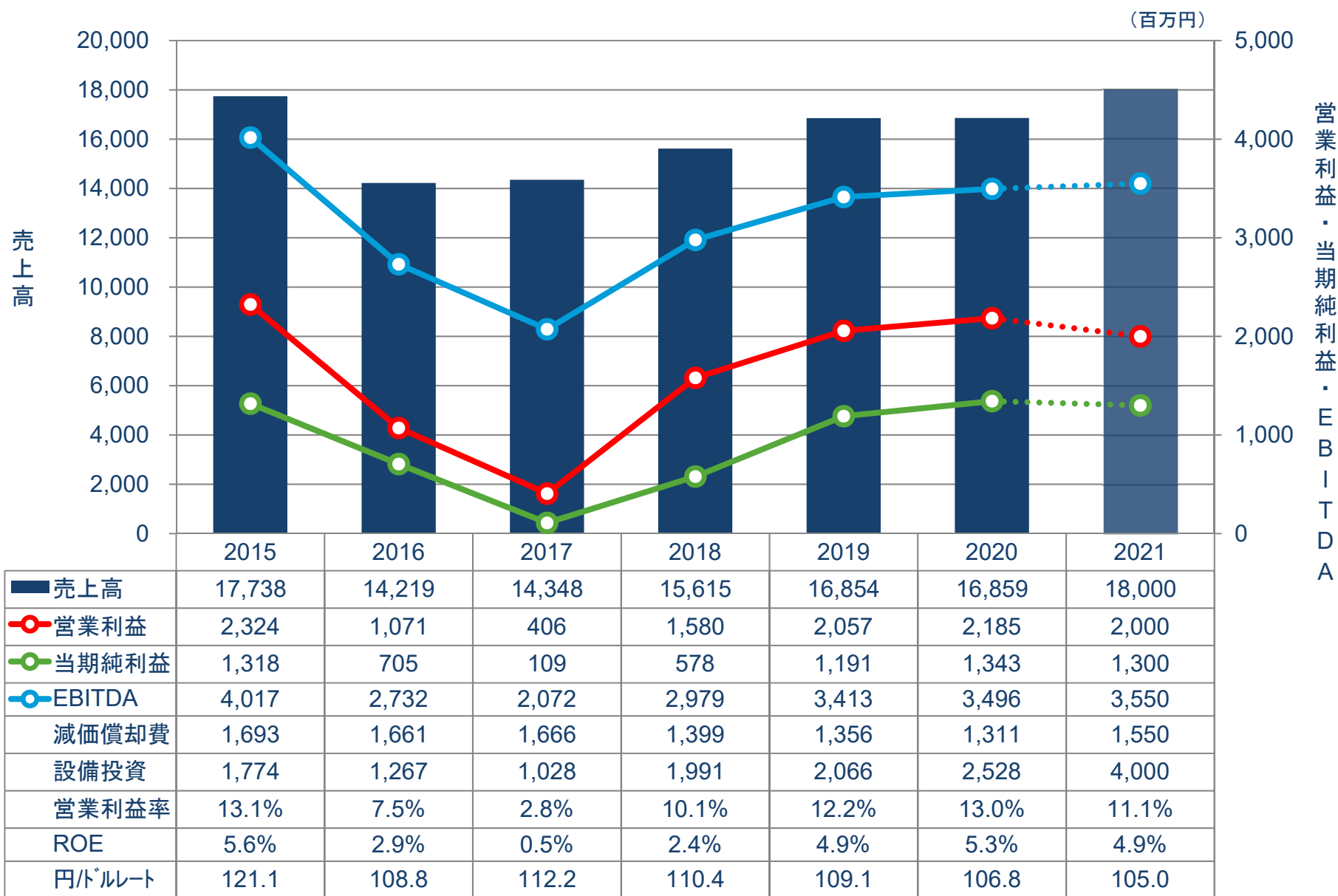


業績のポイント(2020-2021予想)

(百万円)	2020	2021	増減	増減%
売上高	16,859	18,000	+1,140	+6.8%
営業利益	2,185	2,000	▲185	▲8.5%
当期純利益	1,343	1,300	▲43	▲3.3%

- ・第1四半期は、新型コロナウイルス感染拡大により、一部用途向けヨウ素の需要への影響が継続する見込み。第2四半期以降は、上記ヨウ素の需要は回復し、全体としては各事業とも需要は堅調に推移し売上高は増加
- ・原料価格の上昇、新規坑井開発・設備更新等の投資による減価償却費の増加により、利益面では減少

業績推移



ヨウ素の事業環境は、短期的には新型コロナウイルス感染拡大の影響による需要減少はあるものの、中長期的には世界の間層人口の増加、新興国を中心とした経済成長等により、医療用途を中心に安定的な成長が見込まれております。

金属化合物事業につきましても、電子回路の高集積化を担う積層セラミックキャパシタ（MLCC）向け需要は中長期的に拡大することから、大きな成長が期待されます。

対処すべき課題 ①ヨウ素及び天然ガス事業

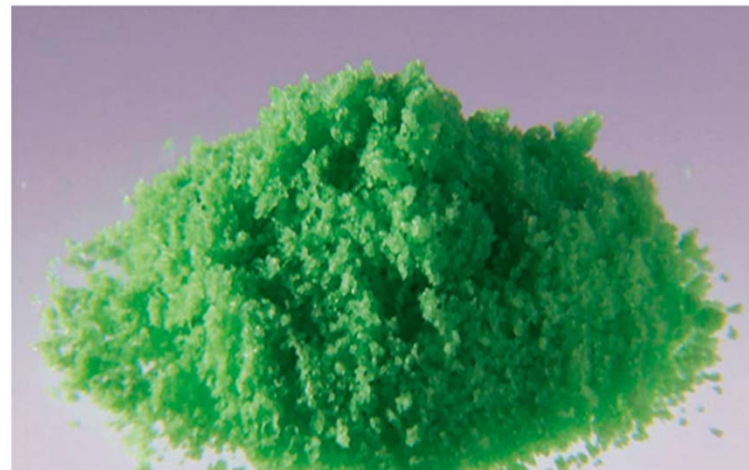
ヨウ素及び天然ガス事業では、設備保全を最優先として、既存設備の維持・更新を積極的に実施し防災体制の強化とともに安定操業を継続し、お客様への安定的な供給責任を果たして参ります。また、新規坑井開発を継続的に行い、既存坑井の生産減退を補うとともに供給能力の拡大を目指します。

限られた天然資源の有効活用を図るため、常に最善の製造プロセスをめざし高効率化を図るとともにリサイクルの向上に努め、投資に伴う製造コストの上昇の圧縮を図って参ります。



対処すべき課題 ②金属化合物事業

金属化合物事業では、MLCC向けの需要拡大に的確にタイミングを合わせ、生産体制を強化して参るとともに、お客様と連携し一層のコストダウンを図って参ります。



対処すべき課題 ④

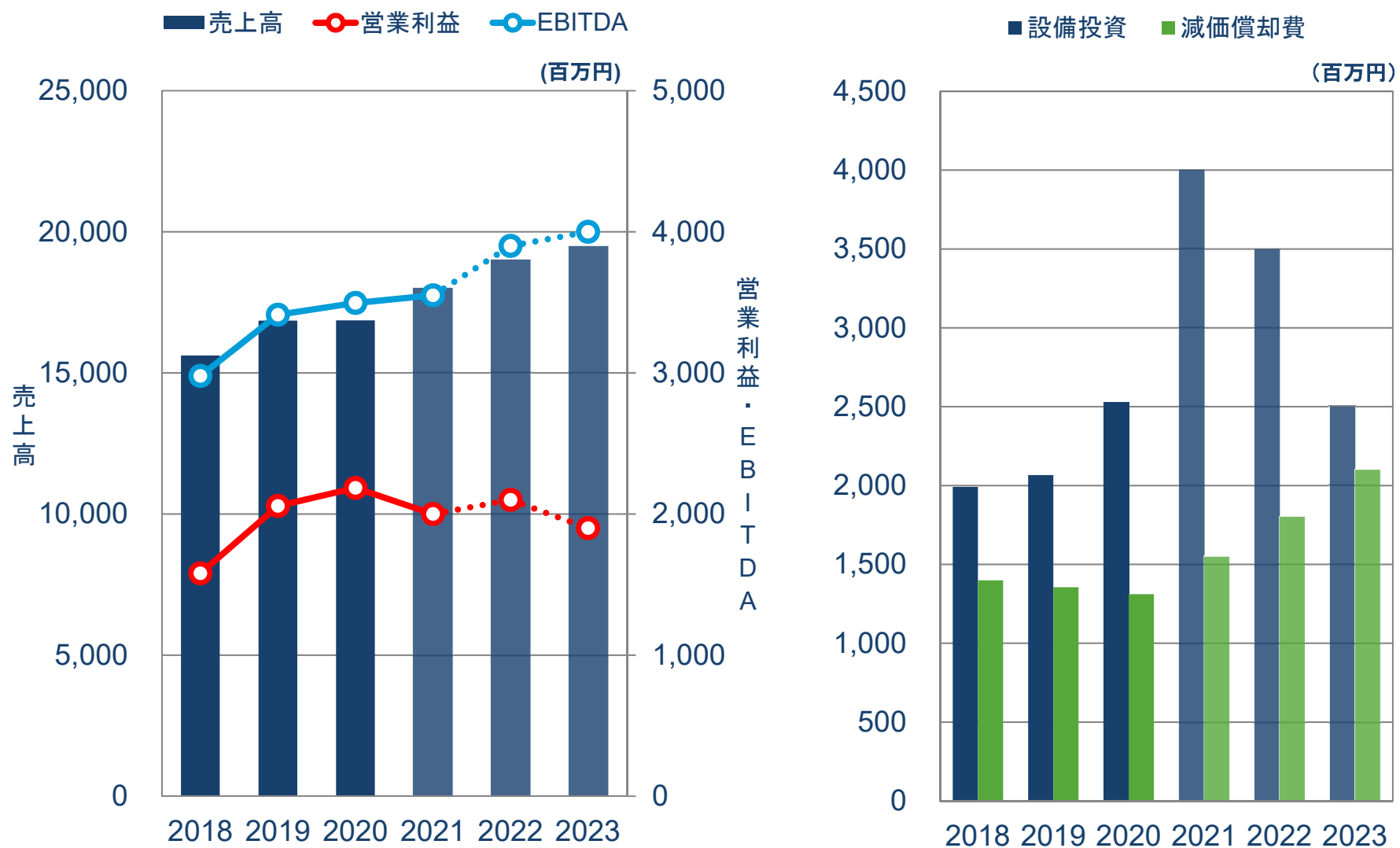
当社の販売は特定用途の需要に依存するところが多く、中長期的に安定成長が見込まれるものの、大幅な技術革新により需要が大きく変化することも考えられます。このために新商品開発及び新規事業の創出が急務と考えております。

社内の資源を活用するだけでなく、外部研究機関と積極的に提携し開発、創出のスピードを上げていく所存です。

このように継続的かつ確実な取り組みを通じて株主皆様のご期待にお応えし、安定的に成長を図って参ります。



これからの3年間(2021年～2023年)の数値イメージ



コンスタントな需要増加に支えられて、事業全体の市場規模は年々拡大して行きます。

このような事業環境を生かし、新規坑井開発、送水・送ガス配管の新設・更新等の設備投資に、向こう3年間で100億円の資金を投じて参ります。合わせて、製品ポートフォリオの最適化、コストの適切な管理を実行します。

これらにより、

売上高営業利益率は、
10%以上

ROE(自己資本利益率)は、
6%以上を目指します

ご参考:2020年実績
売上高営業利益率:13.0%
ROE:5.3%

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。